



感染管理認定看護師
部長 伊田知子

当院では「インフェクション・コントロール・チーム」を組織し、患者様やご家族、来院者、病院職員など、病院内のすべての人を感染から守るために、院内感染の予防と改善活動を推進しています。感染管理認定看護師は、そのチームの一員として、病院内で問題となる感染症の発生状況を把握し、拡がらないように手洗い指導や感染対策を推進する役割を担っています。現場からの相談を受け、職員が根拠に基づいた感染防止ケアを実施できるように支援しています。また、医師、薬剤師、検査技師、事務職員など院内の様々な部門や職種と協力して、病院内を巡視し、感染症情報の提供、適切な感染対策実施の確認、病院設備の調整などを備い、安全な医療環境が提供されるように努めています。

寒くて乾燥する冬は「かぜ」をひきやすいですが、今年流行のインフルエンザは肺炎や脳症などを合併して重症化する場合があります。手洗いというだけで予防し、栄養・睡眠をとり、日頃から健康な体を維持することが大切です。また、感染拡大防止のために「せきエチケット」を守りましょう。

インフォメーション

日本肝臓学会市民公開講座

日時：平成22年2月7日(日)
午後2時～午後4時30分
場所：武蔵野公会堂ホール
入場：無料
先着300名(事前申込が必要)

お問合わせ先
武蔵野十字病院 医療連携センター
担当 谷・平賀



お答えします No.6

Q 最近、クリニック等で医療機械による感染事故の報道をよく目にしますが、こちらの病院ではどのような消毒をされていますか？

A 当院では患者様を使用する機械のほとんどは消毒ではなく「滅菌」という処理を行っています。滅菌とはすべての微生物を物理的、化学的手段を用いて殺滅させるか、完全に除去し無菌状態を作ることです。中央材料室では無菌性を保つべく各種滅菌装置(高温蒸気滅菌器、過酸化水素低温プラズマ滅菌器、エチレンオキシドガス滅菌器)において物理的、化学的、生物学的インジケータ



▲高温蒸気滅菌器(オートクレーブ)

※1)生物を用いて検出するもの

を用いて、本当に菌が死滅しているのか？滅菌装置が菌の死滅する条件で稼働したのか？等の検証をした後で各部署に滅菌物の供給をしていますのでご安心ください。また、検証した結果の記録はすべて保存しております。

年度課

インフォメーション 第8回

武蔵野市地域医療連携フォーラム

テーマ 肥満について考えよう
メタボの正しい理解と生活習慣病予防



日時：平成22年4月10日(土)
午後2時～午後4時30分
場所：武蔵野公会堂ホール
(中央線吉祥寺駅公園口北隣り)
入場：無料 対象：一般市民

共 催：武蔵野市・武蔵野市医師会・武蔵野赤十字病院

2010年 冬
季刊 情報誌



Eye
Eyeむさしのは患者さま向けの情報誌です
ご自由にお持ちください

No.23

武蔵野赤十字病院

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
発行 総務課 広報係

あけましておめでとうございます
創立から60年がたちました



高尾山 山頂より撮影

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる



新年のごあいさつ

院長 富田 博樹

新年は、経済の悪化への対応と、大きな政治情勢の変化で日本中が大きく揺れ動きました。医療の世界では、病院を中心とした医師の過剰な労働が原因となる医療過労がさらに全国的に浸み込み、数世代がその流れを押し戻してくださることを期待しています。また、昨年からの新型コロナウイルスが猛威をふるっています。従来の医療体制では、対応能力を越え地域の医療の崩壊するのではないか心配されましたが、地域の医療施設・医師会・薬剤師会、さらに武野市等の行政力を合わせて、対応することが

できました。この医療に関わるすべての職種が力を合わせて、この新型コロナウイルスを取り扱うことができた経験は、この地域の大きな財産となると思います。21 世紀の医療は、ひとつの病院ですべての医療を行うことはできません。それぞれの医療機関がそれぞれの役割を果たし、それを行政が強力に支援することで、この地域の人命と健康が守られるのです。この新型コロナウイルスに対する今年度の取り組みはそのことを実践しました。今年も、当院はこの地域の中核病院として、地域の医療施設及び医師会の先方方、そして、行政と協力しながら、皆様の命と健康をお守りいたします。

医療は壊れやすい社会の財産です。皆様の協力なしではこれら役割を果たすことはできません。皆様と力を合わせてこの地域の医療を守り育てていきたいと願っております。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携の実践へ

事務部長 小坂 聡



昨年、新型コロナウイルスがカナダからの韓国で感染の起りといわれ、いち早く対策が布かれたにもかかわらず、5月11日は神戸で連続的に無数の人から国内初の感染者が発表され、全国に拡大しました。当院においては平成 19 年 11 月に開設が図られ、最初に東宮、保健所、武野市、医師会と合同調剤を開始が実現してきましたが、一施設での対応では限界があります。

多摩地域では、先駆けて地域医療連携体制が構築され、特に臨中センターが構築されたことから、他の部門も同様に「連携した治療」として捉えられようになりました。その結果、各医療機関との紹介・送転企業も都心の医療圏より高く、モデル病院と評価されています。

新型コロナウイルスにおいても、普段からの医療連携が重要になります。今回は季節性インフルエンザと重なり、ワクチンの供給体制が追い付かない状況にあっても、大きな量にも関わらず対応できました。これも、皆様の理解とご協力のおかげです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

医療連携センターの仕事

医療連携センター 課長 谷 直孝

医療連携センターは、センター長（院長）を中心に、副センター長（診療部長 3 名）・看護部長 1 名・事務課長 1 名・看護係長 1 名・事務係長 1 名・PM（Medical Social Worker）4 名・生保 5 名・「M」職員等 7 名で紹介患者さまの受付（取次方）や入院患者さまの転院支援等（後方連携）を行っています。また、武野市医師会・三浦市医師会・杏林大学病院と協定で地域連携（研修医・学生医・研修員・育兒・乳がん・肺結核診療）や作成し、地域へ結核型の医療を派遣しています。

取次方連携においては、専門性に特化した外来診療を目指して、医療機関の先方からの F A X による診療予約に加え、患者さま本人からの電話による診療予約（紹介状をお持ちの方のみ）も受付、患者さまの利便性の向上を図っております。（F A X 予約もしくは電話予約をすべて受診していただくことにより、患者さまの待ち時間を大幅に短縮されています）

後方連携においては、病種別で振り分けられた M S W が入院患者さま及びご家族さまと情報共有を図り、病院にあった転院先の紹介や在宅療養支援を行っています。また、地域医療支援病院として、当院での急性期治療を終了した患者さまが地域の先方での診療を継続してお受けいただけるシステムを、より一層進めてまいりました。



これからは顔の見える連携を目指して、地域の医療施設へ今まで以上に積極的に M S W・事務が参画してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

* 1 3
※ 患者さまの健康、安全、心身の健康について情報をお知らせし、関係機関との連携を図るためのセンターです。

困ったときは「患者相談」窓口へ

患者サービス課 部長 沢田 寛子



病気になると不安な気持ちになりますし、病気以外にもいろいろなことが心配になります。ご不安やご心配は医師や看護師にお話しいただければ、きっとお応えできると思います。でも、「先生や看護師さんは忙しそう」「説明してもらったが、いまいちとわからない」「同じことをまた聞くのはちょっと」「お金や生活のこと、心配」「こういふことは誰に尋ねたよいかかわらない」「気持ちが届かないので、誰かに話を聞いてほしい」というようなこともあるかもしれません。また、病院側の不慮などでも皆さまにご迷惑をおかけしていることもあると思います。

そのようなときは、お気軽に「患者相談」窓口へお立ち寄りください。「こんなことを言っていたらいいから？」などと思わず、どんなことでもお話しください。匿名でも構いません。「患者相談」窓口では患者さまご家族のお話を聞いて、いろいろな職種・関係する部署のスタッフと協力しながら、患者さまご家族と一緒に解決策を考えていきます。病院としてお手伝いできない場合はどこへ相談すればよいかご案内いたします。

お困りのときは是非遠慮なく「患者相談」窓口をご利用ください。皆さまが安心して診療を受けられるように、できる限りお手伝いさせていただきます。

「患者相談」窓口

- 場 所：5 階 1 階（ラビーズコービー階）
- 開設時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時
- 相談方法：面談、電話 予約：不要（予約優先）
- 費用：無料
- 相談例：ご意見・ご要望・ご質問、病気のこと、療養や生活のこと、医師長や他科医師のこと、スタッフとの関係、かかりつけののご案内、センドアゴビニオン、カルテ閲覧、がん相談 他
- * 皆さまからのご相談内容は、より良い病院づくりに活かしております。

多職種による地域連携ネットワークづくり

副院長 重田 高純



当院は地域の基幹病院として、最善の医療を安全に提供できますよう、多職種による協働の医療を推進し、救急医療・がん医療・母子医療と災害時には緊急医療からチームを編成し救護活動を行っています。

医療が機能分化し、患者さまの病状に応じた医療機関の利用が進んでおります。当院は医療機関の入院・転院、在宅療養への移行の過程に携わっているよう、地域の医療施設の看護職員・ソーシャルワーカー・事務職員が保健師の方々と「顔の見えるネットワーク作り」を進めてまいりました。この間様々な経験や情報交換をを行い、適切な良い適切な医療の提供に努めてまいりました。

今後皆様へ、住み慣れた地域で健康回復へ向かうことが出来るよう、医療施設間の連携体制を整えてまいります。ご指導の程お願い申し上げます。